

## V. 特記事項

### 1. 『アカデミック・スキルテキスト』

学部教育における研究倫理教育の実質化が求められ、学修者本位の教育が求められている時代背景を受けて、スタディ・スキルならびに研究倫理教育に関する全学共通テキストを作成した。本学の学位分野、教育課程に対応させた内容とするために、市販のテキストではなくオリジナルのテキストとして作成することが、学術情報委員会より提案された。

本学において、教養教育の在り方を問い直すことにもつながることから、教養教育課程委員会と学術情報委員会、研究倫理審査委員会を中心としたワーキング・グループを立ち上げ、令和5(2023)年度に内容検討を本格化させ、執筆を開始した。その結果、スタディ・スキルと研究倫理に焦点化し、かつ、学年による学びの質の差に対応させるために三部構成のテキストを完成させた。令和6(2024)年度より教養教育の卒業必修科目「教養基礎演習」「教養発展演習」では教科書として使用し、さらには専門教育課程での「専門ゼミナール」を始め、研究倫理が必要な科目についての参考テキストとした。本テキストを導入することによって、入学段階から卒業段階までのアカデミック・スキルの獲得を体系的に、共通的に学修できるようになった。また大学院での学修者に必要な研究倫理教育についても発展的な内容を網羅させた。本テキストを使用することで、全学的なアカデミック・スキルの向上、研究倫理教育の充実が可能となった。

### 2. 白梅子育て広場

平成17(2005)年にスタートした「白梅子育て広場」(以下、子育て広場)の活動は、平成16(2006)年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」の補助金を得て全学的な活動として教育研究を充実させ、平成19(2007)年度には「白梅子育て広場 GP 学生委員会」(以下、GP 学生委員会)を組織し、以後全学科1年生が履修する授業と、GP 学生委員会の活動を併せて継続している。現在は「地域子育て支援演習」担当教員が運営支援している。

令和5(2023)年度では、学内で子育て広場を3回実施し、4月開催の際は武蔵野美術大学の学生も準備から参加、8月オープンキャンパスでは活動紹介の他に高校生の参加があった。また、学園祭(10月)でも子育て広場を実施した。学外活動としては、ルネこだいら夏休みフェスタ(8月)、小平市産業祭(11月)で出前広場を実施。また、新たな地域連携として、令和4(2022)年にブリヂストンを拠点に立ち上がった「小平共創コミュニティ」にも参加した。これは小平市の福祉団体(障がい児の放課後デイサービス、福祉作業所、地域生活支援センター)や武蔵野美術大学、白梅学園大学の学生有志が、それぞれの取り組みで感じる課題を共有し、コミュニティメンバーの経験や知識、つながりを生かして、地域の社会課題解決を目指すというもので、「つながるまつり」へ参加するとともに、異彩たちのアート展でワークショップを実施した。さらに、地域の高齢者施設の小川ホームにて行われた「おがワンプフェスティバル」にも参加した。1月には第17回シンポジウムを開催し、活動総括をするとともに、地域住民とのグループディスカッションも実施した。

GP 学生委員会の学生は、積極的に活動に取り組んでおり、卒業後も子育て広場開催時に参加する者も多い。子育て広場の活動を通して、学生の企画力、実践力、省察力などが伸びるとともに、上級生や地域の人たちと学び合う関係性も着実に広がっている。